

# データ活用方針（案）

～DX推進基盤で取り組むデータ活用の推進～

【概要版】



令和5年2月

三重県デジタル社会推進局  
デジタル改革推進課

# 1 DXの鍵となる「データとデジタル技術の活用」

## DX (デジタルトランスフォーメーション) (※)

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、  
**データ**とデジタル技術を活用して、  
顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、  
ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、  
組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、  
競争上の優位性を確立すること

経済産業省「デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン」(平成30年12月)



**データ**とデジタル技術を活用して、  
ビジネスを変革し、価値を創出すること

### (※) DXの定義について

三重県では、DXを「デジタルを活用することにより、時間短縮や付加価値の向上を重視し、暮らしやしごとをより良いものにすること」と考えています。

## データの活用はなぜ必要か

### 直面する課題への対応に有効

- 企業・行政等が直面する、人手不足解消・生産性向上などの深刻な課題にデータ活用が有効

### 現状の把握に役立つ

- 主観的な視点に依存せず、利用者ニーズなど、データという明確な根拠に基づく現状の把握が可能

### 今後の政策立案等につながる

- 現状把握の次のステップとして、データを詳しく分析することによって、確度の高い将来予測をベースに、戦略・政策等の立案が可能
- 実行した戦略・政策等の効果検証の際にあたっては、データ活用が有効

## 2 国の動き（データ活用関連）

### ■ 「デジタル社会の実現に向けた重点計画」

（令和4年6月7日閣議決定）

- 経済発展と社会的課題の解決を両立する  
「包括的データ戦略」の展開
- 最大のデータ保有者である行政が、データの分散管理を基本にアーキテクチャを策定
- 基盤データ・カタログの整備、民間とオープン化・連動できるオープンなシステムを構築

#### （※）DFFT（Data Free Flow with Trust）

データのプライバシーやセキュリティ・知的財産等に関する課題に対処することで、国内外の自由なデータ流通を促進させ、消費者及びビジネスの信頼を強化する考え方

### ■ 「包括的データ戦略」

（令和3年6月18日閣議決定）

- データは知恵・価値・競争力の源泉で社会課題を解決する切り札

- DFFT（※）の具体化を実現するための戦略が急務

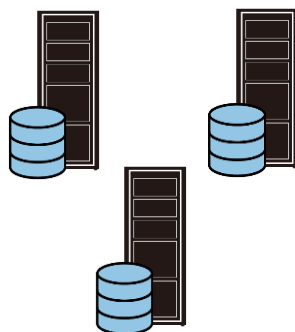
（抜粋）行政におけるデータ行動原則

- ① データに基づく行政（文化の醸成）
  - ・ 政策課題に対応するデータの特定
  - ・ 意思決定のためのデータ使用 等
- ② データエコシステムの構築
  - ・ 活用・共有を前提とした設計・整備
  - ・ データ標準の活用 等
- ③ データの最大限の利活用
  - ・ アクセスルールの明確化・公開
  - ・ オープンデータの推進 等

# 3 県の「データ活用の推進」

## ■ データ活用にあたっての課題

**システムデータ**




**データのサイロ化への対応**

部門・事業のシステムは個別最適で整備され各データも独立（サイロ化）

→全システム用にデータを集約・統合することは現実的ではないが、分析のために、必要なシステムデータを、柔軟に収集できるしくみが必要

**各種データ**



**庁内保有データの把握**

システムデータも含めて、庁内のどこにどのようなデータがあるのか把握できていない

→全てのデータの保有状況を把握する必要がある

## ■ DX推進基盤で取り組むデータ活用の推進

### 庁内保有データ等の調査

- システムを含めた庁内で保有するデータや、データ活用に関するニーズ調査を実施

### データ活用基盤の整備運用

- 必要なデータを収集・加工・分析できるデータ活用基盤を整備し、実証実験等を展開

### オープンデータの推進

- 庁内保有データ調査に基づき、可能なデータからオープンデータとしての提供を推進

### データ設計等（データ設計・人材育成）

- データの適切な品質管理・データ設計の実施と、これらを行うデータ活用人材の育成

# 4 DX推進基盤の整備運用 (R4整備、R5~R9運用)

## DX推進基盤の全体像

**【目的】**

- ✓ 徹底的な業務効率化・生産性向上
- ✓ データ活用による新サービス創出

**取組1** **コミュニケーションの活性化**

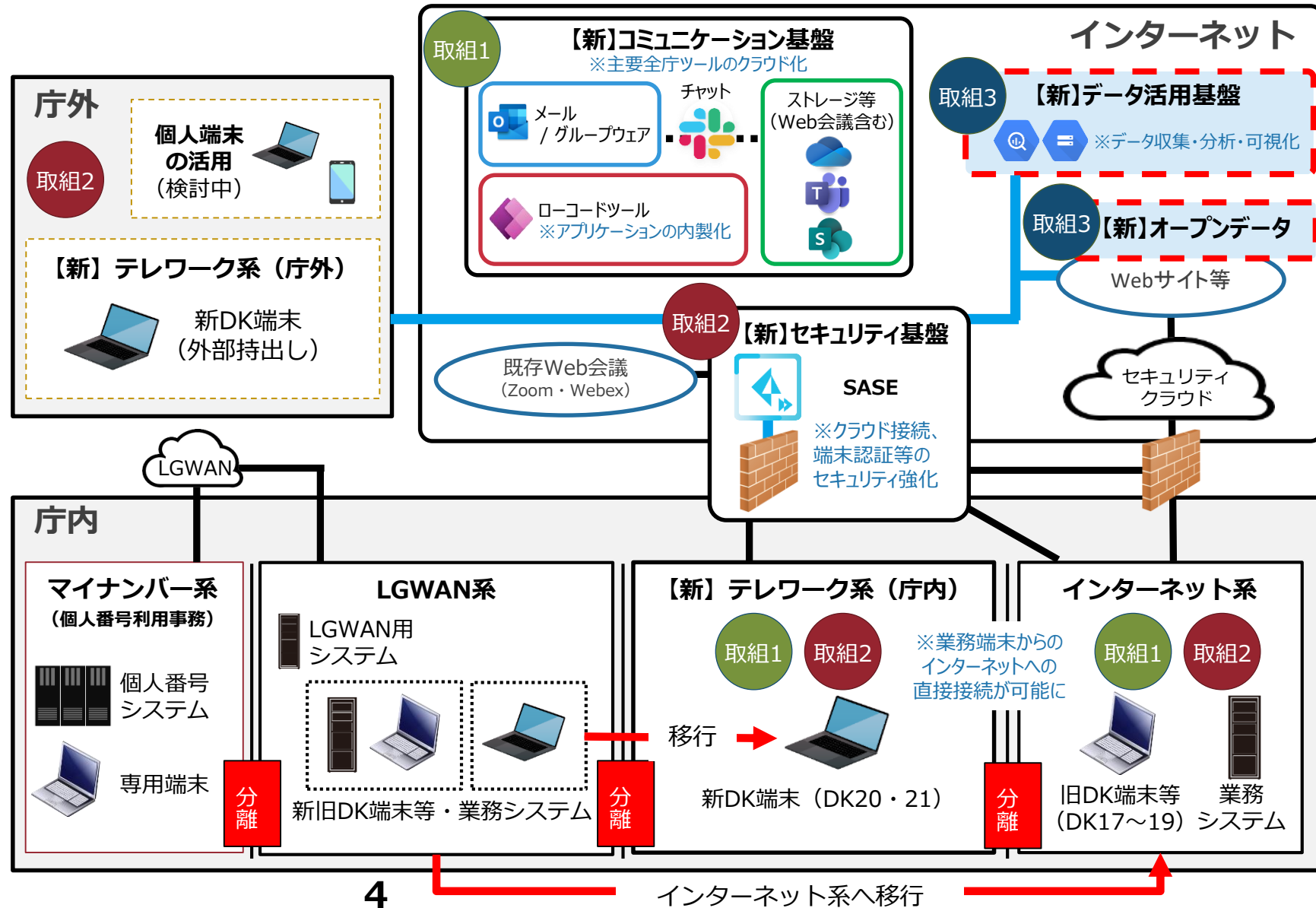
- インターネット接続環境の改善
- 主要全庁ツールの移行・刷新

**取組2** **柔軟で多様な働き方の実現**

- テレワークの推進
- セキュリティ対策の一層の強化

**取組3** **データ活用の推進**

- DXの核心は「データ活用」
- データ活用基盤の整備・運用



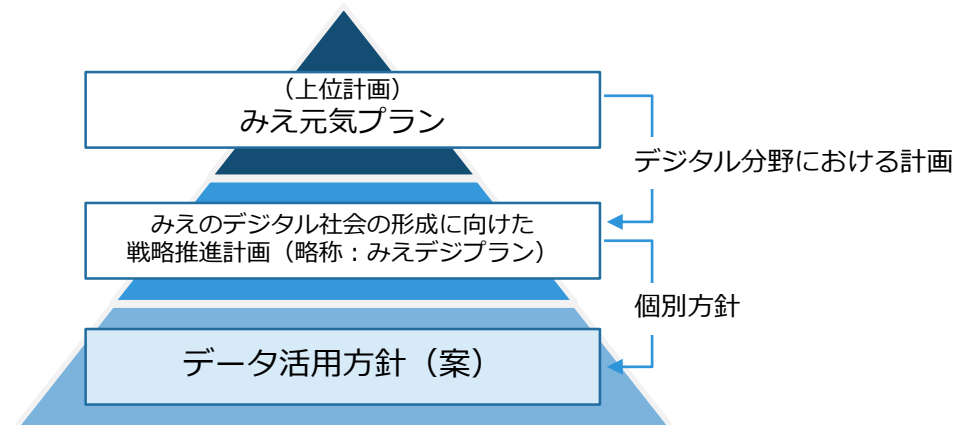
# 5 策定の趣旨・位置づけ等

## 策定の趣旨

- 令和5年度以降の、オープンデータの充実や、課題テーマへの対応としてデータ活用基盤を通じて実施する実証実験など、DX推進基盤において、計画的・効果的なデータ活用を推進していくための方針を整理



## 位置づけ



### 「みえデジプラン」

3-3-1

情報通信基盤の整備・運用と情報セキュリティ対策

取組内容／目標項目	現状値 (R4)	目標値 (R8)
DX推進基盤（データ活用基盤）を利用したデータ活用プロジェクトの件数（累計）	－件	12件

(R5～R8まで、年あたり3件のプロジェクト実施目標)

# 6 策定の趣旨・位置づけ等

## 対象期間

- 令和5年度～令和9年度（DX推進基盤の運用期間）  
（取組には令和4年度に実施した環境整備等の内容を含む）

## 体系

- 「基本的な考え方」と「3つの推進方針」、  
その実現に向けて取り組む「3つの取組」で構成

- 「基本的な考え方」

データドリブンな組織の実現に向けた  
データマネジメントの実践

- 「3つの推進方針」

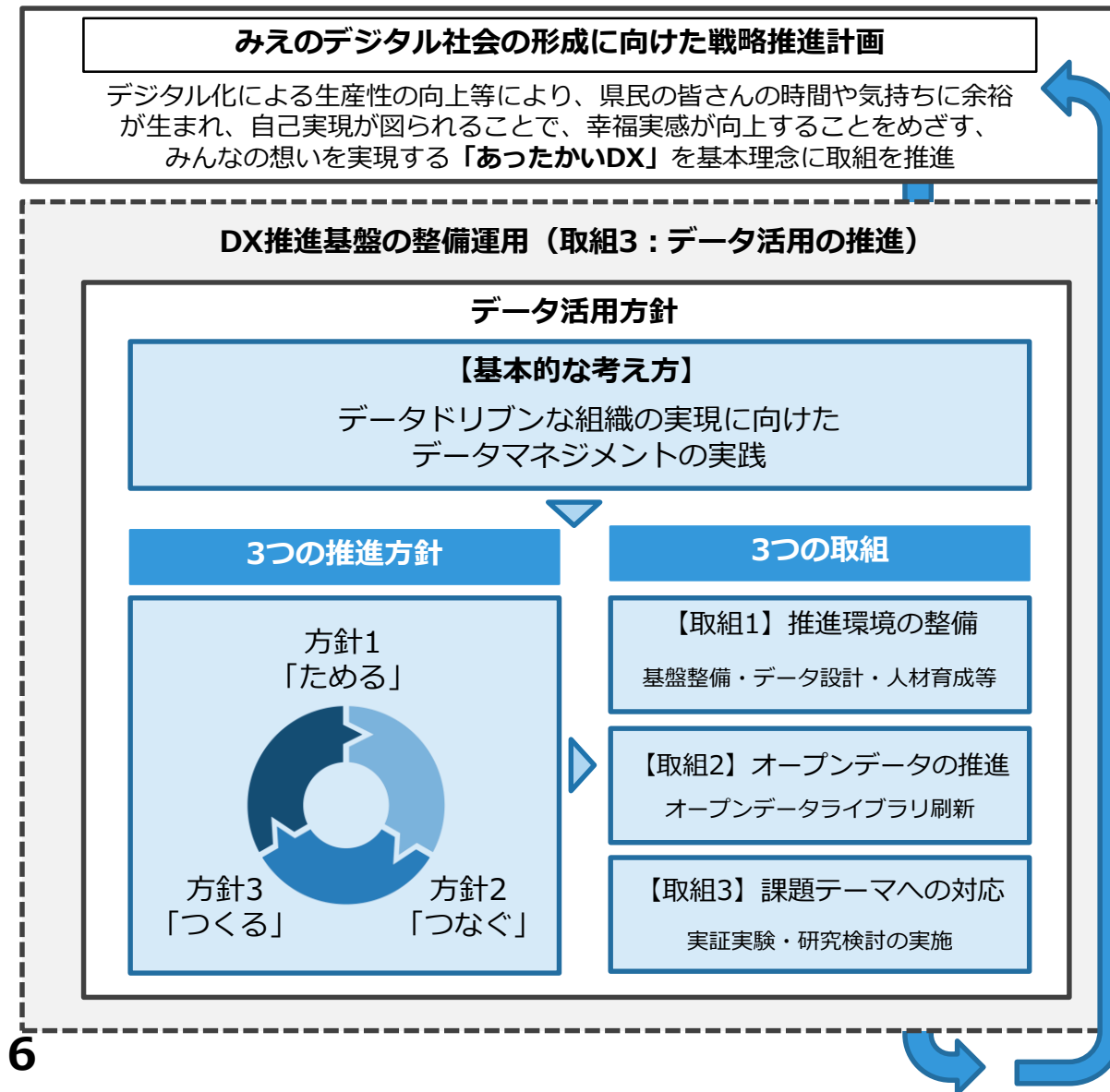
→ 「ためる」「つなぐ」「つくる」

- 「3つの取組」

→ 「取組1：推進環境の整備」

→ 「取組2：オープンデータの推進」

→ 「取組3：課題テーマへの対応」



# 7 推進方針

## データ活用の推進に向けた3つの方針

データ活用の実証実験については、  
スモールデータで個別の成功例を  
一定作り出した後に、  
横断的なプロジェクトに発展させる  
**スモールステップの考え方が重要**

方針  
1

### 「ためる」

#### デジタル化の推進

さまざまなデータを効果的に  
活用できるようデジタル化を推進

令和4年度には  
まず「庁内にどのようなデータが  
どれくらい保有されているか」を把握  
することからスタート

### 「つくる」

#### 新サービスの創出

多様なデータ連携による  
分析・可視化に基づく  
課題解決や新サービスの創出

方針  
3

方針  
2

### 「つなぐ」

#### データ連携の促進

県だけにとどまらず  
市町・企業等が保有するデータも  
活用できるよう連携を促進



# 8 取組1：推進環境の整備

## 1\_1 データ活用基盤の整備・運用

### データ活用基盤とは

- 関係システム内のデータや、センサー・カメラ等のIoTデータなど、各種データの「収集・加工・分析・可視化」等、一連の作業を行うしくみ
- 今回、Googleのクラウドサービスで環境を整備

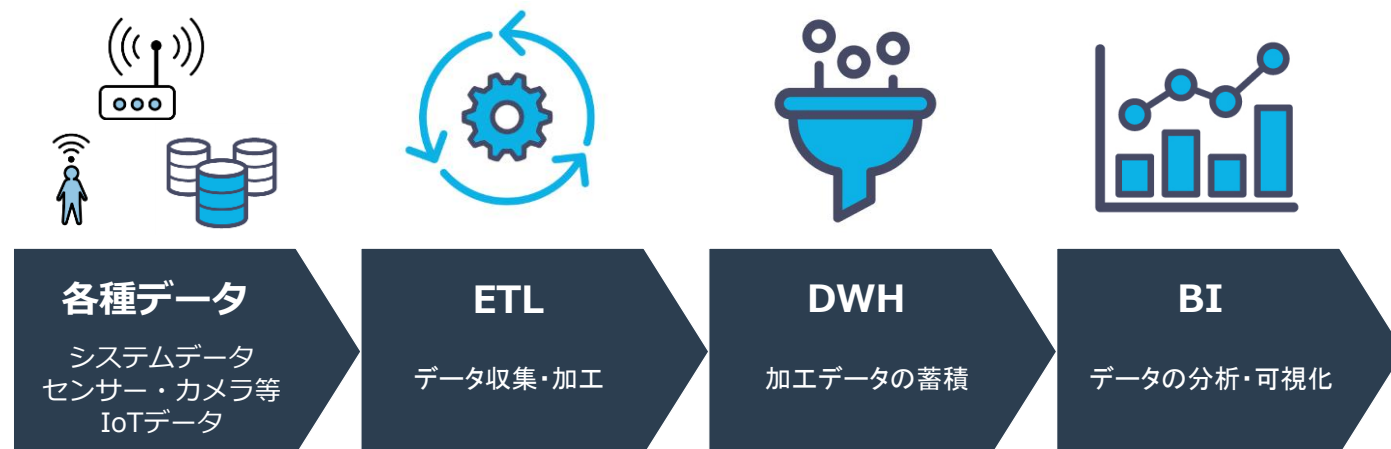
### データ活用基盤の主要機能

- 3つの主要機能
  - データ収集・加工（ETL）
  - 加工データの蓄積（DWH）
  - データの分析・可視化（BI）  
（イメージは次スライドのとおり）

DX推進基盤では、データ活用基盤に加えて、コミュニケーション基盤（取組1）で採用されたMicrosoft製品である「Power BI」を活用して、職員がExcel等のデータ分析を自由に行うことができる

### クラウドサービスに関する事項

- 採用するクラウドサービスは、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」に登録済で、国の厳しいセキュリティ基準をクリア
- クラウドのデータセンターは国内拠点を採用



# 9 取組2：オープンデータの推進

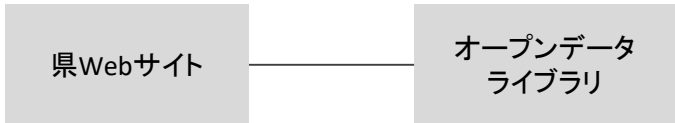
## ■ 現行オープンデータライブラリの現状

**現状（問題点）**

- メタデータ（※1）等による横断的な検索ができない
- API（※2）等によるオープンデータの取得ができない
- データの公開を原課側で実施しているため、メタデータや公開フォーマット、公開方法の統一管理・徹底が難しい

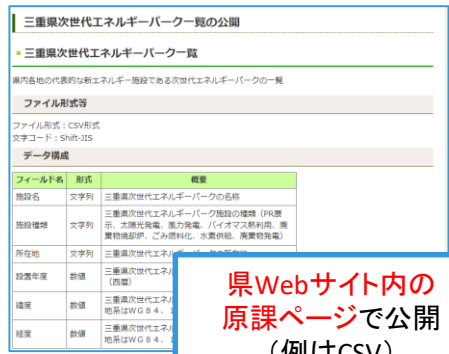
（※1）メタデータ  
所属・ファイルの説明・ファイル形式など、それがどのようなデータであるかを示す情報

（※2）API  
外部サービスからデータを取得し、自らのサービスに組み込む等の機能



1. 「産業・商工業」
2. 「統計」
3. 「防災・災害」
4. 「健康・保健・医療・福祉」
5. 「施設情報」
6. 「文化・教育・観光」
7. 「環境」
8. 「防犯・安全」
9. 「法令・土地」
10. 「歴史街道・文化資産等・句碑等」
11. 「お知らせ・イベント情報」
12. 「その他」
13. 「新型コロナウイルス関係」

オープンデータ一覧(カテゴリ: 産業・商工業)



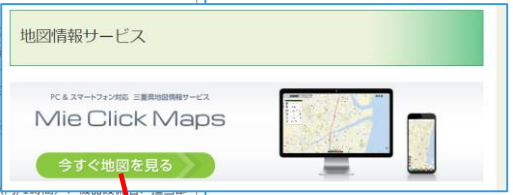
県Webサイト内の原課ページで公開(例はcsv)



県Webサイト内の原課ページで公開(例はHTML)

データ名	公開組織名	オープンデータ公開開始日	ファイルダウンロード	ファイル形式	備考
公的工業団地	雇用経済部企業誘致推進課	平成27年2月2日	Mie Click Mapsにて公開	KMLファイル	県内の公的工業団地に関するデータ。
三重県次世代エネルギーパーク一覧	雇用経済部ものづくり産業振興課	平成29年3月9日	三重県ホームページにて公開	CSV	県内各地の代表的なエネルギーパークの項目：施設名、施設経度
機器設備データベース	工業研究所	平成29年3月17日	三重県ホームページにて公開	HTML	三重県工業研究所で、県内の観光地における項目：施設所在地、(円)、使用料金、署名、担当者、電話番号
観光レクリエーション入込客数推計	雇用経済部観光政策課	平成29年3月13日	三重県ホームページにて公開	PDF	県内の観光地における項目：平成17年から全国振興協会が提案)に
太陽光発電施設	雇用経済部振興課	平成29年3月13日	三重県ホームページにて公開	CSV	県内各地の主な太陽光発電所の種類、電設備の出力 (MW)

県Webサイト内の地図情報サービスへ

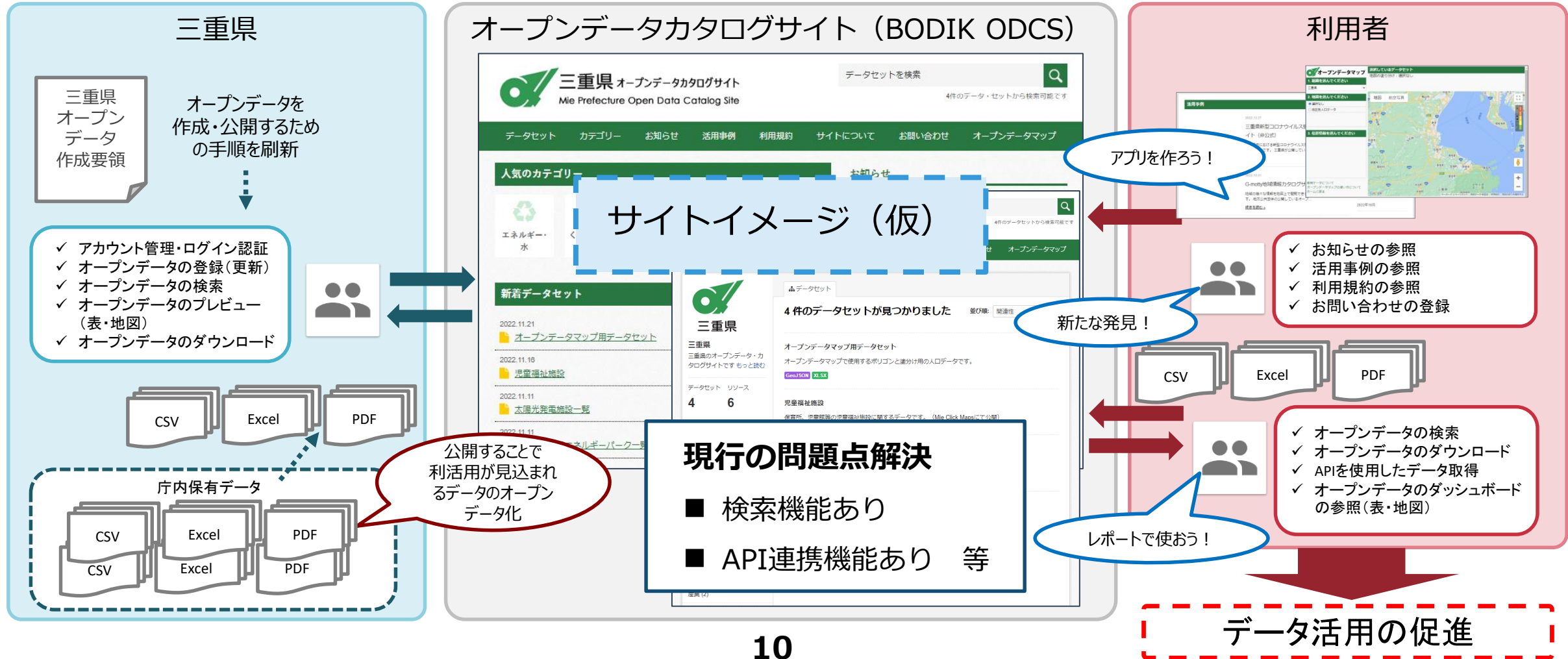


他のシステム(他ドメイン)で公開

# 10 取組2：オープンデータの推進

## オープンデータライブラリのクラウドサービスBODIKへの移行（令和5年7月予定）

（公財）九州先端科学技術研究所が提供する自治体オープンデータ連携基盤サービス（13府県・216市町村の240自治体が利用）



# 11 取組3：課題テーマへの対応



## (テーマ選定の経緯)

- 令和4年7月にニーズ調査を実施
- 回答のあった16件からヒアリング等を実施し、2件を選定
- 令和6年度の課題テーマは令和5年度に再検討

## 令和5年度課題テーマ

NO	課題テーマ名	所属	現状・課題	実証実験の方向性
1	潜在的な移住ニーズの把握に向けた観光データ等の活用	地域連携部 移住促進課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本県への移住にあたり、観光等で地域を訪れ、移住に至るといったケースが一定数あることから、関係部局データ（例：観光来訪者の属性等）を組み合わせた移住に対するニーズの把握や精緻なデータ分析が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 移住・交流ポータルサイト「ええとこやんか三重」の閲覧者を通じた移住ニーズ把握の手法を検討</li> <li>• 観光局が運用している観光マーケティングプラットフォームで保有しているファン（観光客）を通じた移住ニーズ把握手法を検討</li> <li>• これらのデータをデータ活用基盤に集約して分析し、効果的な情報発信とその効果検証を行う</li> </ul>
2	豚熱浸潤状況調査データの活用	農林水産部 家畜防疫対策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 県内で継続的に実施している野生イノシシの豚熱浸潤状況調査データの活用が十分でない</li> <li>• 調査データ等各種データを分析・活用して、豚熱感染防止対策につなげていくことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 過去データと継続的に取得しているデータをデータ活用基盤に取り込み、イノシシ調査状況を地図上に反映</li> <li>• 養豚農家の位置データも加え、ワクチン散布の場所・数量の特定や、過去データに基づく将来予測を行う</li> </ul>

# 12 取組3：課題テーマへの対応

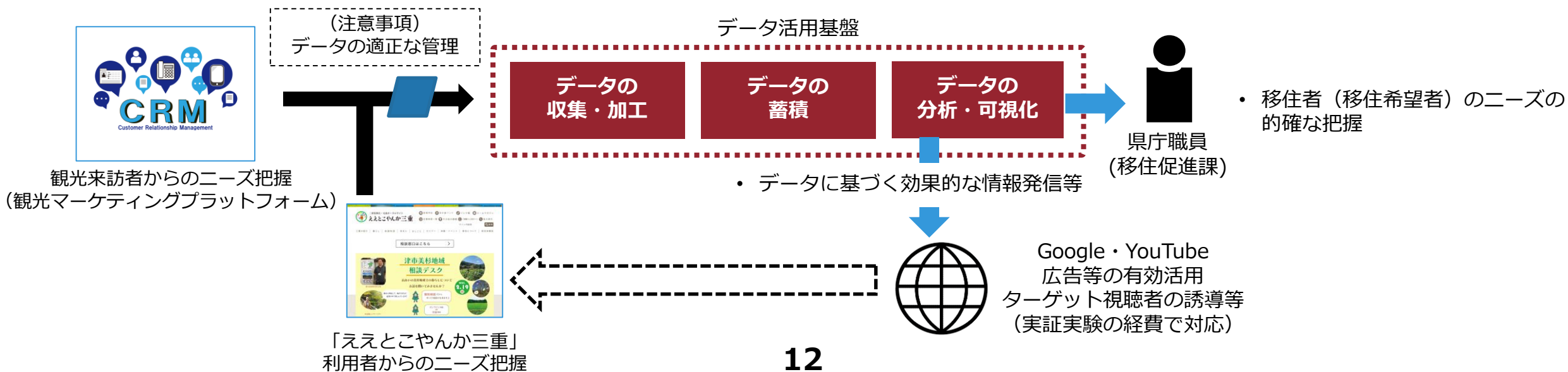
## ■ テーマ1：潜在的な移住ニーズの把握に向けた観光データ等の活用

### 現状・課題

- 本県への移住にあたり、観光等で地域を訪れ、移住に至るというケースが一定数あることから、関係部局データ（例：観光来訪者の属性等）を組み合わせた移住に対するニーズの把握や精緻なデータ分析が必要

### 実証実験の方向性

- 移住・交流ポータルサイト「ええとこやんか三重」の閲覧者を通じた移住ニーズ把握の手法を検討
- 観光局が運用を開始している観光マーケティングプラットフォームで保有しているファン（観光客）を通じた移住ニーズ把握手法を検討
- これらのデータをデータ活用基盤に集約して分析し、効果的な情報発信とその効果検証を行う



# 13 取組3：課題テーマへの対応

農林水産部家畜防疫対策課

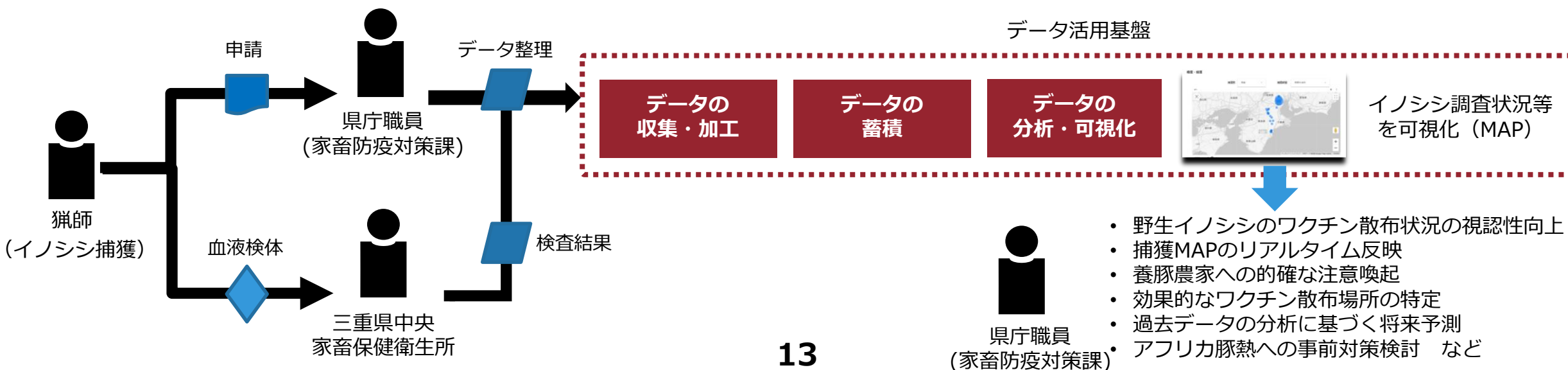
## ■ テーマ2：豚熱浸潤状況調査データの活用

### 現状・課題

- 県内で継続的に実施している野生イノシシの豚熱浸潤状況調査により蓄積されたデータの活用が十分でない  
(令和元年度から調査開始、これまでに約1万件保有)
- データ解析等を行うためのノウハウもなく、時間を確保することが困難な状況
- 調査データ等の各種データを分析・活用して、豚熱感染防止対策につなげていく必要がある

### 実証実験の方向性

- 過去データと定期的に申請があるデータをデータ活用基盤に取り込み、イノシシ調査状況をリアルタイムで地図上に反映
- 上記情報を外部共有（養豚農家への注意喚起等）や報道提供に活用する
- 養豚農家の位置データも加え、ワクチン散布場所・数量の特定や、過去データの分析に基づく将来予測に役立てる



# 14 取組3：課題テーマへの対応

## ■ データ活用に関する研究・検討（令和5年度予定）

令和5年度に実施する、課題テーマの実証実験と並行して、以下のテーマ等におけるデータ活用の課題や、今後の方向性等について、デジタル社会推進局と関係部局が連携して研究・検討を行う

### 防災に関すること

#### 現行のデータ取得・活用等の課題と今後の方向性（案）

- データ取得の自動化
- 地図データの有効活用
- 庁内部局・市町等との連携強化
- 次期防災情報プラットフォームの検討 等

### 公共インフラに関すること

#### 基盤データのデジタル化推進とデータ活用基盤の活用（案）

- 基盤（道路・河川・海岸台帳）のデジタル化
- 地理空間データ活用の検討
- デジタルツインの研究
- IoT（カメラ・センサー情報等）の活用の研究 等

### 観光に関すること

#### 観光マーケティングプラットフォームとの連携（案）

- CRM（顧客管理）として運用している観光マーケティングプラットフォームが保有するデータ（主に観光客）の効果的な活用方法の研究・検討
- その他、データ活用基盤と連携したデータ連携の検討 等

# 15 全体スケジュール

項目	令和4年度			令和5年度				令和6～9年度			
	4-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	R6	R7	R8	R9
<b>取組1：推進環境の整備</b>											
①データ活用基盤の整備運用	調達	設計・整備（10-3）		運用（R5-R9）							
②県保有データの棚卸調査等	調査	分析	可視化作業	調査	分析	継続的に実施					
③人材育成	研修（分析ツール）・委託業務（BPR支援業務）・OJT（実証実験）等										
<b>取組2：オープンデータの推進（BODIK）</b>											
		意向確認		意向確認	調査と連動して継続的に実施						
			オープンデータ整備	オープンデータ運用・更新							
<b>取組3：課題テーマへの対応（データ活用基盤）</b>											
		ヒアリング選定		ヒアリング選定	前年度検証・新テーマ検討						
				データ活用実証実験（R5-R7）					本格運用		
	研究・検討（防災・公共インフラ・観光）							継続的に実施			





三重県

